

千八百七十七年十一月十七日  
東京夕井ムス新聞抄譯

邦國ノ財政ヲ論ス  
ミル氏ノ深護英ニテライト氏ノ自由貿易論

大藏省  
翻譯課

4252



114  
A 1409



十一月十七日東京タイ  
新聞紙ヨリ抄記

大正十一年四月  
隈侯爵贈

是ニ論説 自由貿易ト保護税ノ主義ト是非  
 歐米諸國ノ得失ニ關係スルカ為メニ非アルナリ蓋レ一項政米  
 ノ形勢ヲ觀ルニ漸ク自由貿易ヲ非認シテ益々保護税  
 施スルノ实例アルカ故既ニ其得失ニ判然タリ  
 今斯ニ歐米諸國カ自由貿易ノ 一変ニテ保護税ノ形勢ヲ  
 施設セシ美況ヲ奉ケテ其得失ニ 証スル者ハ特ニ日本ノ形勢ニ  
 取テ最ニ重要ナリテテナリ  
 頃日我論者乃チ外國ノ論ニ此等ノ得失ニ就テ辨論スル処ハ恰  
 カニ二大アングロサクソン國ノ形状ニ於ケルカ如ク其說ニ派  
 ニ分レタリ乃チ其方ノ孰チ固クニ内國ノ産業ハ專ラ其長ス  
 ル所ニ從テ而シテ其長セサシムルハ之ニ他國ノ長スル所ニ從  
 テ

頼ス  
可ラナルヲ強辨固執セリ他ノ一方ハ自由貿易ノ素ヲ  
ラサルヲ爲ルト雖モ立  
五張ル者は是レナリ

之ヲ實施シテ間断ナカリ  
自由貿易ノ説感  
稅ノ制度ハ之レカ爲メ壓例  
情分アルヲ以テ之ニ今日良政府ノ以テ其政各  
得ルニ望  
政州ニ勢ヲ得ルヤ已ニ二十五年ノ日

わろ

曰ク堅牢不拔ノ基ヲ占ムルカ故ニ常

以承未タ  
要欠ク可ラサル  
自由貿易ノ理ハ苟モ斷勢ニ適マサレハ妄想

定セシメテ年保護稅ノ制度ヲ  
ニアリ既ニ国力充分ニ  
ルニ此ノ理論家ハ實際上  
世間ノ便益ヲ起サ  
ルナリ是ニ於テカ諸國皆英國ノ所為ニ從テ自由貿易ヲ  
シクナ

英國ニ  
 適セラル所以ナリ英國自由貿易ヲ施スヤ其弊ハ米ノ  
 諸工業ヲ委任スル如ク威ニ製造産ヲ去リ自由ニ海  
 輪ヲ運バシハ之レヲ多ク金額ヲ収メテ大ニ富國ヲ致  
 シルニシテ元ラ以テ此國ノ富ハ恰クモ英國ノ剥人ル  
 カ如キ有候ナルカ故各國ノ富ハ恰クモ英國ノ剥人ル  
 シト子被<sup>金</sup>ツルニ至レリ就中 穀田  
 第一等ニシテ汲々保護ノ制度ニ着手セタ  
 ノ論者ハ此舉ヲ非認レテ呼々之ヲ拒絶セリト云  
 マテモ此制度ヲ已セカ遂ニ現今吾人ノ目撃  
 ノ産業ハ之マ威ニ致シテ其國內ノ需要ヲ  
 己ラフ昔ハ  
 英國ニ輸出スル

わん

ルモ亦々英國ニ為ニナリ保護  
 免レサニ処アル 認レテ保護主義ノ欠  
 シタリ其他ノ論者ハ現今未リ之ヲ認知セラ  
 實ニ人情勢ニ就テ克ク其克クヲ確究スルハ  
 ノ大リ可ナル 認知レ得可キ  
 載アル如クタイト氏ハ多身一固執セ自由貿易ハ暗ク措  
 欲スニ方リ且間於テ財主其未熟ラ厭セ或ハ其損失ヲ恐  
 テ之ヲテサレハ別テ政府其資金ヲ差レテ此業ヲ興ス  
 ヲ以テ其國是トスルナリ又タ從來國內ニ於テ營  
 興ヲ

レ其...  
 カル...  
 不ニ所説...  
 我ヲ以テ其良善ノ...  
 フレハゴフイト氏々企望...  
 一層其法略ノ優レ...  
 氏ノ如キ博識ノ学士...  
 能ハサルトコロアリ...  
 起ス者アト云ハ次ノ...  
 然リト云モ...  
 ルナリ試ニ保護説...  
 遵奉セ

歸本ノ製造ヤ紐育...  
 易新...  
 其旺盛ナリ...  
 如斯ノ形情ノ...  
 自由貿易ト保護税主義ノ得失タル...  
 現ニ日本政府カ外交ノ制度...  
 田賢者ヲ以テ将々日本ノ國是...  
 主義ノ留邊ニ不利ア...  
 妄リニ名ナル経済...  
 其貿易ノ日本ノ為メニ望ム...  
 賭博ノ英國ト英ニ異ナ...  
 方今自由貿易ヲ...  
 諸...  
 尽...

然ル者ハ仰モ論者々日本政府ヲ以テ此等ノ変情ヲ  
平将ク此等情ニ由リテ其是非ヲ判別スルニ疏  
ル乎止輩々其水ノ流ニ從ヒテ其是非ヲ判別スルニ疏  
行ヲ花サニトシテ保護税ノ制度ヲ遵奉スル  
ニ由テ觀レバ日本政府ノ財政ノ實ニ其國ノ新  
稅主義ニ水ナラカルヤ斷然疑ハレ  
見時日本政府ノ理財ノ實ニ其國ノ新  
ノ婦著スル処ヲ觀ヨ其勢ヒ殆ント保護税主義  
ルヲ諧シ得ヘシテ而シテ保護税ノ制度  
忘ニ背馳スルヲ敢テ之ヲ施設スルハ之レ  
ハ憂レバ他 東洋諸國ニ於テハ往々以  
モ今ヤ日本ヲ保護税ノ度ヲ施設ス

云々

一道理上カヲ以テスルニラズ英國  
レハ馬ノ之ヲ憂慮スルヤ  
三氏ノ保護税ニグライト氏ノ自  
曩キニハヨンスヲエノルトミル氏ハ經濟論  
主義ノ枉ク可ラサルヲ論シ僅々タル論議ニ施  
賀日ノ交想ヲ駁撃シタリ故 英人ノ自ノ賀日  
此論 言 常ニ其意見ニ背馳  
皇モ間然スレ処アラサルハ其具駁論ヲ辨解スル  
意中學ニハロドゲルスノ如キハ心中稱々其論  
ヲ覺ル処アハ直ニ抗論セスト臣氏尚ホ口ニハミル氏ノ説  
認レリト思ヘタリ意ハミル氏ノ所言ハ日田貿易ノ  
ル而已ララス保テ保護税主義ニ逆ヘルノ謂ニシテ  
ハ故ニ 曰 之レハ其國ノ保護税論 主セシ

後キハ乃チ此類ニシテ此等ノ學士カ嘗テ謀ラシ  
 テセシカモテ其具ヲ察スルニ保護稅主義ヲ得失ハ江  
 月ノ論題トナリタレ世入屢々ミル氏ノ論說ニ説キ  
 トアリ故一吾輩ハダブルユレハレイガミル氏ノ  
 ルル一説ヲ示シテスマレイビ  
 ニ同テロク子未タ此說一乃チニ  
 ヤミル氏之レニ答テ曰ク然リ余ハ必スモ  
 ルニ非ハ余カ所見ヲ以テ考フレハ方今合衆國  
 以レテ保護稅主義ヲ施スニ小ナラサルナリ今  
 左ノ論說ハ世ニ著用ハ讀者ノ  
 ハ之ヲ心裏ニ記マ  
 ルニ足ル者ナレハ吾輩之ヲ再刻レテ  
 レ此書ハミル氏ノ經濟論中ヨリ撮抄セシモ  
 ミル氏曰ク九甲國ノ産業ノ乙國ニ優レ  
 早キニアリテ其國ノ固有ニ非ナルナリ且  
 其美驗ヲ積ミ熟練ヲ得テ以テナリ斯ク定  
 得ル一國ハ殖上送カニ建テ古キヨリ  
 規ノ産業ニ熟練マシム欲  
 カサルニシ然レハ規ノ工業ハ充分熟練  
 衡ハ同トテ至ルマテ人民具損失ヲ恐  
 サルヲ將々之ヲ企ルモ永ク支ルハ是  
 ラ支シク為マ適度ニ及マテ保護稅主義ヲ施  
 且重稅ヲ課ルモ不  
 其國

後キハ乃チ此類ニシテ此等ノ學士カ嘗テ謀ラシ  
 テセシカモテ其具ヲ察スルニ保護稅主義ヲ得失ハ江  
 月ノ論題トナリタレ世入屢々ミル氏ノ論說ニ説キ  
 トアリ故一吾輩ハダブルユレハレイガミル氏ノ  
 ルル一説ヲ示シテスマレイビ  
 ニ同テロク子未タ此說一乃チニ  
 ヤミル氏之レニ答テ曰ク然リ余ハ必スモ  
 ルニ非ハ余カ所見ヲ以テ考フレハ方今合衆國  
 以レテ保護稅主義ヲ施スニ小ナラサルナリ今  
 左ノ論說ハ世ニ著用ハ讀者ノ  
 ハ之ヲ心裏ニ記マ  
 ルニ足ル者ナレハ吾輩之ヲ再刻レテ  
 レ此書ハミル氏ノ經濟論中ヨリ撮抄セシモ  
 ミル氏曰ク九甲國ノ産業ノ乙國ニ優レ  
 早キニアリテ其國ノ固有ニ非ナルナリ且  
 其美驗ヲ積ミ熟練ヲ得テ以テナリ斯ク定  
 得ル一國ハ殖上送カニ建テ古キヨリ  
 規ノ産業ニ熟練マシム欲  
 カサルニシ然レハ規ノ工業ハ充分熟練  
 衡ハ同トテ至ルマテ人民具損失ヲ恐  
 サルヲ將々之ヲ企ルモ永ク支ルハ是  
 ラ支シク為マ適度ニ及マテ保護稅主義ヲ施  
 且重稅ヲ課ルモ不  
 其國

一月以前に於ては、幸政 氏ハ殖民地議長タル故 財政ヲ議シ保護稅五社ノ可ラサ ルヲ主張シテ英國ノ著述家先演古者 數名ノ論ヲ引証シ  
 レカシヨンドイト氏ノ説ニ及ホセリ蓋シゴイト氏ハ四ニ  
 自カラ手口大區執セレ意見ノ乃チ其由安謬ナレヲ悟覺セシ  
 モノナレハハリ然リ而シテ氏カ新然其説タルヲ發論シハ  
 世間ニ明カナラズ然レ氏世人ハ氏々其旧米固執見テ誓  
 ク指テ稍ヤ異説ヲ唱ヘシヲラハル者ナレシ是ニ於テスマ  
 トイ氏ヲレテニウヨルクトリヒシ新説 氏ノ確言ニ論及シレメタリ吾輩ハ左ニスマ  
 ケテ讀者ノ參考ニ供セン  
 ジヨングライイト氏ノ保護稅之義ノ枉ク  
 ト虽モ再ハ自由貿易ノ安謬トラス可ラサルヲ信セシナ

リ其然ルヤ左ノ論ニヨリテ急スヘシ但レ此書ハブライト  
 氏カ嘗テマフスタリヤ國ニ莫ニ関レシヤ會議  
 院ノ議長タルモルチアレガヴァンダフイハニ陳述セシ者  
 ナリ  
 其説ニ云ク方今アフスタラリヤ國ノ産業ニ從來  
 スキキ者アリテ國民免服シテ以テ之レニ從度ニ欲セハ  
 政府ニテ此營業ヲ支ルノ方法ヲ施スヘシ則チ其成否ヲ試ムベシ  
 年間保護主義ヲ施シテ營業ヲ保護シテ其成否ヲ試ムベシ  
 ト  
 右ノ論說 從テ自由貿易主義ヲ遵奉セルヨリト氏カ嘗テ自由貿易  
 ヲレテ驚愕セシメ其言ニ云クブライト氏カ嘗テ自由貿易  
 易說ヲ主張セシハ抑モ其真意ニ由テサリシク承レテ然ラハ  
 吾儕ノ被ルニ説ニ感服スルヲ喜タシト云フト氏カ



言ヲ聞テ固ク然ラサレバ  
ニ陳述セシコトニ及ボ  
レヤン如キハ完ク余ノ意見ヲ誤解セリナリト然レテ  
アズイド信スル処ハ此新説曰説ナル自田賢アリ左  
ニ  
其説ニ云ク蒸氣船ノ支保ハ人皆其國家ニ重要ナ  
虽氏民間ニテハ財主其未熟ヲ或ハ其損失ヲ恐ル  
之ヲ企テサル者ナレハ政府ニ若干金ヲ資  
業ヲ施スヘシ然ラハ其道義ニ悖ラズシテ國  
亦タ蒸氣船等總テ新規ノ農産ヲ從來國内ニニテ起  
ンコラ欲セハ政府ニテ若干金ヲ費用シテ其  
而シテ其將來ノ減衰ハ人民ノ勉強ニシテ  
レ氏保護稅法ヲ施至要欠ク可ラサル輸入品ニ重稅ヲ課

わ九

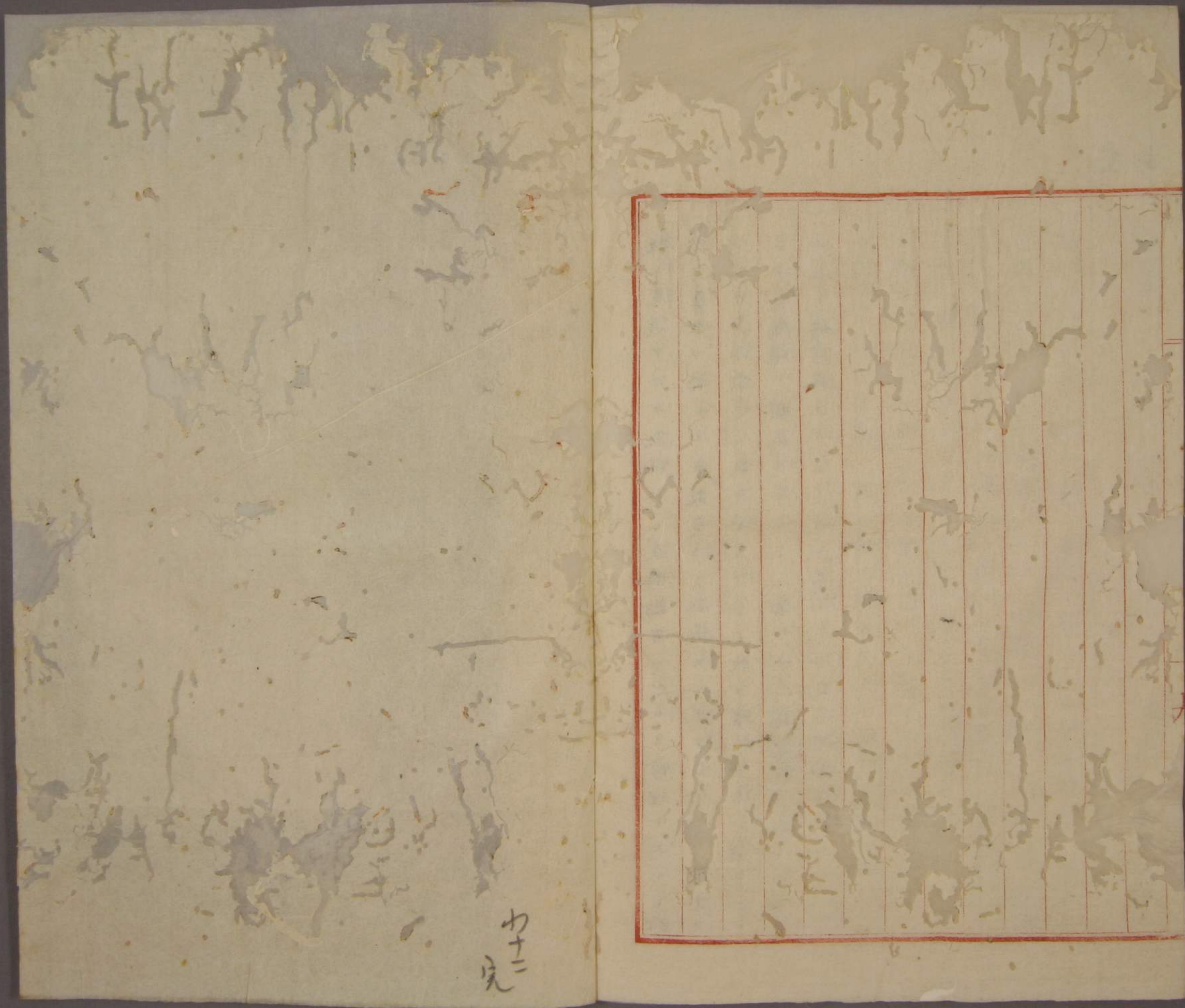
スルハ稅関ノ苛法ヲ云ハサルヘカラス夫レ自由貿易ヲ以テ  
他國ト競争ス可ラサル支業ヲレテ將來ニ成  
ヲ企望スルカ為メ國民ニ重稅ヲ賦スルハ余ノ決レテ是認セ  
サルノ政畧ニシテ蓋シ國民ニ内國ノ物品ヲ購ハレメンカ為  
メ輸入品ニ重稅ヲ賦スルハ自然其價ニ騰貴スレハ故全國  
一般ノ人民ニ該稅ヲ賦スルニ齊シケレハナリテ  
害無道ノ政畧ト云ハサル可ケン哉然ルニ世間ノ余ノ意見ヲ  
知ラサル者ハ余ク嘗テ保護稅説ヲ是認セルヲ云  
ラ憂  
前論中畏ク一章ニ付テ熟テ其事理ヲ推究スレバライト  
氏カ所認ル蒸氣船トハ只ニ一例ヲ示スニ過キスレバ更テニ  
此意行テ廣ムレハ前ニ終レテ國家重要ノ事ト如クナル  
護主義ノ理前ナル或  
ノ優ニ蒸氣船ノ事業ト云フ

モ宮ニ造船...トノミ...  
ルカカレ加之政府ニテ非取製配製等其地迄  
事業ハ悉皆之ヲ擔當シテ直接ニ國內ノ産業ヲ輔  
ハ輸入品ニ稅ヲ課シテ間接ニ人民ノ産業ヲ保護  
結果ハ同一ニシテ國產ノ盛大ヲ致スニ外アラ  
自由貿易主義ノ論者ニシテハ前説ノ如ク政府ニ  
國ノ産業ヲ補助スル時モ又ハ輸入品ニ重稅ヲ課  
人民ノ産業ヲ保護スル時モ其利害ハ異ナレバ  
ナルヘレト  
夫レブライト氏ノ意旨ハ保護主義ヲ唱フニ非  
ク処ノ事理ヲ推究スレバ改理上ニテ所謂ユル保  
任ト云ハサル可ラシク乃チ其議論ノ要領ヲ身  
凡ク國家ノ獨立ヲ及ニルニ重要ノ事業ハ保護  
主義ヲ施シテ

ヤ

常ニ之ヲ内國ニテ營マサル可ラト云フニアリ蓋シ  
以テ物ヲ他國ニ購求スルハ必ズレモ常ニ難  
乱戰爭ノ時ニ際シテ南亞米利加ノ一時ノタリ  
ク閉塞スルハ則チ容易ニ之ヲ購求スルハ可  
而シテ他國ノ襲撃ヲ防禦レ自國ノ獨立ヲ保  
ル武器軍備等ノ類ハ平素ニ備ヘ之ヲ内國ノ  
チハ勿論構戰ノ時ニアリテハ尚ホ更ニ注意  
ス夫レ如クモ理論ハ未ダ嘗テ自由貿易論者  
処ニ非ニシテ此他ブライト氏ハ保護主義ニ就  
処尚ホ許サレトモ余ハ其説ノ二個ノ思想ヲ  
ハルナリ乃チ其一保護稅主義ノ制度ハ永世  
モノノ想像スルニアリテ二保護稅主義ノ制  
補助ニ依テ立チス者漸ク騰貴シ大約其利





カ十二  
宛

